

科目名

創作研究Ⅲ

必修【創作表現コース】

開講年次：2年次1期

演習

単位：6単位

■科目のねらい

この授業では、「創作研究Ⅰ、Ⅱ」の様々な表現の演習を基盤とし、「創作技法研究Ⅰ、Ⅱ」の技法、素材から受ける創作衝動を活動の本源としながら、それぞれのテーマ立ての上、「衣」の造形の作品制作を行う。

また、この創作の流れを、テーマ、コンセプトを軸に徐々に修了制作へと移行させていく。

「創作研究Ⅱ」から引き続き、プレゼンテーションの可能性の探求を通し、作品を表現の領域まで高めて行くことと、それを修了制作発表の方法研究に繋げ、発展させて行く。

そして同じく前期から引き続き、つくりあげた造形作品を「外部意識」に対照することにより、客観的で強固な表現力を身につけることに向かう応用課題を行う。

・作品制作

「創作技法研究Ⅱ」と「創作研究Ⅱ」の統合を行い、個人テーマを設定した上での創作研究を行う。

また、修了制作のテーマ設定及び、エスキースの作成も行う。

[担当：桐山征士、千代崎寛、安部智子、鈴木桜子、瀬古徹、白木ゆみ香、田口雅子 15回]

・プレゼンテーション演習 - 2

ープレゼンテーションプランニング、インスタレーション、作品集ー

修了制作発表の具体的計画を踏まえて、プレゼンテーション演習 - 1 の継続と発展を行う。

[担当：瀬古徹、千代崎寛 13回]

・応用課題

ープレゼンテーションー

1年次の継続と発展を行う。

[担当：桐山征士、千代崎寛、安部智子、鈴木桜子、瀬古徹 2回]

以上の3つの実践的方法論により、創作の研究を進行、発展して行く。

■到達目標

創作を意識的に「作品化」、そして「表現」へと向かわせ、「衣」の造形作家としての礎を成すことと、その発展と応用を目指す。

■修了認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

修了認定に必要な科目である。

本科目は修了制作に向けて、それぞれの造形研究テーマに基づき、エスキース及びマケット等から作品を構想し、制作コンセプト、制作プロセスの確立を行いながら創作研究を行い（作品制作）、作品と展示空間、小作品集など、それぞれの制作・発表のプロセスと直接的・間接的に関わりながら、プレゼンテーションに必要な要素とともに意識を形成し（プレゼンテーション演習 - 2）、その二つの研究を統合し、創作者としての自意識を持つて、外部の専門的な視点からの批評、評価を受け（応用課題）、「衣の造形」作家としての制作姿勢とその作品水準の向上を図り、修了制作におけるプレゼンテーション、インスタレーション、パフォーマンスといった表現への足がかりとすることを目的とする。

■担当教員

桐山征士、千代崎寛、安部智子、鈴木桜子、瀬古徹、白木ゆみ香、田口雅子

■授業計画・内容

	授 業			そ の 他
	▼作品制作	▼プレゼンテーション演習 - 2	▼応用課題	
第1回	→導入 提出の研究テーマの確認 修了制作へ向けて	1)小作品集について →テーマ、視点 2)修了制作発表ギャラリーの サーチ(1) (瀬、千)		研究計画 - 改訂 2 提出 長期休業課題 - ②プレゼンテーション→確認、 面接
第2回	→制作① 修了制作エスキース ① - 企画書・マケット	1)作品撮影研究① →作品コンセプトとシチュエー ション“空間シミュレーション” →(1)「雰囲気」について 2)修了制作発表ギャラリーの サーチ(2) (瀬)		修了制作指導担 当者選定(1) →作品プランニ ング、面接

第3回	→制作② 修了制作エスキース ② - 企画書・マケット	1)作品撮影研究② →作品コンセプトとシチュエーション “空間シミュレーション” →(2)実スケールについて 2)修了制作発表ギャラリーの リサーチ(3) (瀬)		修了制作指導担 当者選定(2) →作品プランニ ング、面接
第4回	→制作③ 修了制作エスキース ③ - 企画書・マケット	1)小作品集プランニング “小作品集マケット” 提案 2)修了制作発表ギャラリーの リサーチ(4) (瀬、千)		修了制作指導担 当者決定
第5回	→制作④ コンセプトプラン①	エディトリアルデザイン① (“小作品集マケット制作の ためのレイアウト”)校正プリント (千)		修了制作計画提 出
第6回	→制作⑤ コンセプトプラン②	エディトリアルデザイン② (“小作品集マケット制作の ためのレイアウト”) 校正プリン ト 著作権表記などの確認 (千)		
第7回	→全体講評会 「応用課題」に向け て	小作品集講評 “小作品集マケット” 講評 (瀬、千)		
第8回	→制作⑥ 表現としての造形に ついて			
第9回	→制作⑦ 修了制作エスキース ④ マテリアルプラン(1)	修了制作発表プランニング① →導入。 1) 静止した「衣」の造形、動き の中の「衣」の造形、それぞ れの「衣」の造形の方向性 2)修了制作発表ギャラリーの選 定(1) (瀬)		
第10回	→制作⑧ 修了制作エスキース ⑤ マテリアルプラン(2)	修了制作発表プランニング② →インスタレーション実験 “発 表空間シミュレーション”、イメ ージドローイング、マケット制 作(1) 2)修了制作発表ギャラリーの選 定(2) (瀬)		
第11回	→途中講評 確認、検証	修了制作発表プランニング③ →インスタレーション実験 “発 表空間シミュレーション”、イメ ージドローイング、マケット 制作(2) 2)修了制作発表ギャラリーの選 定(3) (瀬)		
第12回	→制作⑨ 展開(1)	修了制作発表案作成 (瀬、千)		
第13回	→制作⑩ 展開(2)	” (瀬、千)		
第14回	→講評 「応用課題」に向けて		→「作品制作」の作品 のプレゼンテーショ ン、外部審査員を含め た審査、講評①	

第 15 回	(「応用課題」) 修了制作に向けて	プレゼンテーション、講評 (瀬、千)	→「作品制作」の作品 のプレゼンテーショ ン、外部審査員を含め た審査、講評②	(プレゼンテー ション、ポート フォリオ 1 冊提 出)
--------	----------------------	---------------------------	--	---------------------------------------

■研究のための時間外準備

・作品制作

- 第 1 回 各自研究テーマのポートフォリオによる確認〔準備研究〕 90 分
当日ディスカッションによるフィードバック
- 第 2 回 修了制作の企画案（エスキース、マケット）作成〔準備研究〕 240 分 当日ディスカッションによる
フィードバック
- 第 3 回 修了制作の企画案（エスキース、マケット）の改善〔準備研究〕 240 分 当日ディスカッションに
よるフィードバック
- 第 4 回 作品「発想」の具体化〔→第 7 回においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕、修了制作の
企画案（エスキース、マケット）の改善〔準備研究〕 240 分 当日ディスカッションによるフィード
バック
- 第 5 回 発想を構想化した制作プロセスの確認〔準備研究〕 240 分 当日ディスカッションによるフィード
バック
- 第 6 回 作品「構想」に主軸を置いた制作〔→第 7 回においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕
〔準備研究〕 360 分
- 第 7 回 作品構想のプレゼンテーション準備〔準備研究〕 120 分 当日講評にてフィードバック
作品構想の評価の分析、問題点の解決〔→第 8 回以降においてディスカッションにてフィードバック〕
240 分
- 第 8 回 表現としての造形に重きを置いた制作〔準備研究〕 360 分 当日ディスカッションによるフィード
バック
- 第 9 回 素材による技法を意識した制作〔準備研究〕 360 分 当日ディスカッションによるフィードバック
- 第 10 回 それぞれの制作プロセスの確認と制作実践〔→第 11 回においてプレゼンテーションの講評にて
フィードバック〕〔継続研究〕 480 分
- 第 11 回 制作プロセスの確認〔→第 14 回及び「応用課題」においてプレゼンテーションの講評にてフィード
バック〕 480 分
- 第 12 回 制作プロセスの確認、展開〔→第 14 回及び「応用課題」においてプレゼンテーションの講評にて
フィードバック〕〔継続研究〕 480 分
- 第 13 回 途中講評における評価の分析と、問題点の解決。それぞれの制作プロセスの確認と制作実践〔→
第 14 回及び「応用課題」においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕〔継続研究〕 480 分
- 第 14 回 作品構想のプレゼンテーション準備〔準備研究〕、作品構想の評価の分析、問題点の顕在化と解決〔→第
15 回、「応用課題」においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕〔継続研究〕 480 分
- 第 15 回 1) 作品表現の方向性の確認 2) 1) に伴う制作プロセスの確認 3) 作品展示方法の研究と確認〔→「応用
課題」及び、後期修了制作においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕〔継続研究〕 480 分

・プレゼンテーション演習 - 2

- 第 1 回 カタログ、作品集などのサンプルリサーチ〔→第 2 回においてプレゼンテーションの講評にてフィード
バック〕〔準備研究〕 120 分
修了制作発表会場のリサーチ〔→第 2 回においてディスカッションにてフィードバック〕
〔準備研究〕 120 分
- 第 2 回 雑誌などの紙媒体からの「もの撮り」画像のリサーチ〔→第 3 回においてプレゼンテーションの講評に
てフィードバック〕〔準備研究〕 90 分
修了制作発表会場のリサーチ〔→第 3 回においてディスカッションにてフィードバック〕
〔継続研究〕 120 分
- 第 3 回 雑誌などの紙媒体からの「状況」画像のリサーチ〔→第 4 回においてプレゼンテーションの講評にて
フィードバック〕〔準備研究〕 90 分
修了制作発表会場のリサーチ〔→第 4 回においてディスカッションにてフィードバック〕
〔継続研究〕 90 分
- 第 4 回 小作品集作成のための印刷業者のリサーチ〔→第 5 回に向けて〕、マケットのエスキース作成〔→第 5 回
においてディスカッションにてフィードバック〕マケットの作成〔→第 7 回に向けておいてプレゼン
テーションの講評にてフィードバック〕〔準備研究〕 120 分
修了制作発表会場のリサーチ〔→第 9 回においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕
〔継続研究〕 90 分

- 第5回 マケットのレイアウト作成〔→第7回においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕
〔準備研究〕 120分
- 第6回 マケットの作成〔→第7回においてディスカッションにてフィードバック〕〔準備研究〕 180分
- 第7回 マケットを基にした小作品集作成〔当日プレゼンテーションの講評にてフィードバック〕
〔準備研究〕 240分
- 第8回 修了制作発表会場のリサーチ〔→第9回においてディスカッションにてフィードバック〕
〔継続研究〕 90分
- 第9回 修了制作発表会場のリサーチ〔→第10回においてディスカッションにてフィードバック〕
〔準備研究〕〔継続研究〕 60分
イメージドローイング、マケット作成〔→第10回においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕〔準備研究〕 120分
- 第10回 修了制作発表会場のリサーチ、決定〔→後期修了制作発表においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕〔継続研究〕 60分
イメージドローイング、マケット作成〔→第11回においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕〔継続研究〕 90分
- 第11回 修了制作発表会場の展示計画〔→第12回においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕
〔準備研究〕 120分
- 第12回 修了制作発表会場の展示計画〔→第13回においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕
〔継続研究〕 120分
- 第13回 修了制作発表会場の展示計画〔→後期、「修了制作」においてプレゼンテーションの講評にてフィードバック〕〔継続研究〕 120分

・応用課題

- 1) 「作品制作」において制作した作品の完成〔準備研究〕 600分
- 2) 「作品制作」において制作した作品のプレゼンテーションの準備〔準備研究〕 240分
- 3) 外部審査員（造形作家）に関してのリサーチ〔準備研究〕 90分
- 4) 作品評価の分析、問題点の解決〔→後期、修了制作にてフィードバック〕 240分

■教科書・参考文献等

参考文献

・作品制作

『身体 of 夢 ファッション or 見えないコルセット』京都国立近代美術館他編集、京都服飾文化研究財団発行
『MAISON MARTIN MARGIELA STREET special edition volumes1&2』青木正一発行、ストリート編集室、メゾンマルタンマルジェラ

Luc Derycke and Sandra Van Veire: *BELGIAN FASHION DESIGN*, LUDION

Hussein Chalayan, Caroline Evans, Suzy Menkes: *HUSSEIN CHALAYAN*, Nai Uitgevers Pub

・プレゼンテーション演習 - 2

William A. Ewing: *Edward Steichen: In High Fashion: The Cond Nast Years 1923-1937*, Thames & Hudson

Gianluigi Toccafondo: *LA PICCOLA RUSSIA*, Little More

Barbara Engelbach: *Bilder in Bewegung - Kuenstler & Video & Film*. Perfect. Museum Ludwig Köln

Stefan Horn, Rudolf Netzelmann, Peter Winkels: *Signs of the city - metropolis speaking*. jovis

Bronwyn Cosgrave 編『SAMPLE - 100 ファッションデザイナー - 010キュレーター』ファイドン

イリヤ、エミリア・カバコフ（著）『プロジェクト宮殿』、国書刊行会

■成績評価基準と方法

造形作家としての自意識を確立するための授業であるが故に、積極的に自らの創作力と表現力を広げる姿勢を評価ポイントとする。

・作品制作

作品とプレゼンテーションは数回の講評会において担当者全員が評価を行う。それを前提に、毎回の指導は瀬古が行う。但し下記の制作の経緯に関する評価は、その毎回の指導からのみではなく、講評会時のプレゼンテーションやポートフォリオ等の参考資料によって当人が伝えることも含まれる。

課題・制作への取組の姿勢（経緯）	60%	エスキースの物量、取り組みの量と質。「修了制作」のエスキースの進行状況
授業内試験等、作品、レポート、プレゼンテーション（結果）	40%	途中講評会における作品、プレゼンテーション
外部専門家評価	0%	

・プレゼンテーション演習 - 2

「修了制作」発表のための準備を行うことがメインになるため、修了制作のテーマと、発表場所、発表方法等が合致しているかが大きな前提となる。また、そのためにどれくらいの緻密な意識を持つことが出来るかも大きな評価ポイントとなる。自分の作品表現に対する食欲が問われることとなる。

瀬古担当

課題・制作への取り組みの姿勢（経緯）	50%	研究テーマによるコンセプト、制作のプロセス、エスキース、それらがわかるレポート
授業内試験等、作品、レポート、プレゼンテーション（結果）	50%	作品とプレゼンテーションによる（瀬古）
外部専門家評価	0%	

千代崎担当

課題・制作への取り組みの姿勢（経緯）	70%	研究テーマとコンセプト、制作プロセスの記録（エスキース、ポートフォリオ）の質と量による（千代崎）
授業内試験等、作品、レポート、プレゼンテーション（結果）	30%	作品とプレゼンテーションによる（千代崎）
外部専門家評価	0%	

・応用課題

創作者からの意識だけではなく、社会からの視点で作品が、表現が評価される絶好の機会となる。しかも評価者は自分と同じ創作者のプロフェッショナルである。当然厳しく、乾いた評価を得ることとなるであろうが、問題はそのようなプロフェッショナルな創作者にも伝わる明快なコンセプトと、強い取り組みの姿勢を育むことが出来るかである。

課題・制作への取組の姿勢（経緯）	10%	「作品制作」における取組の姿勢。制作の経緯。
授業内試験等、作品、レポート、プレゼンテーション（結果）	10%	作品、プレゼンテーション
外部専門家評価	80%	専門家の視点でのプレゼンテーション、作品それぞれの社会における質との比較による

■研究倫理への取り組み

・作品制作、応用課題 担当 桐山；

自らの研究発表(彫刻家としての展示会等)を通して、模倣とオマージュの違いを明確にし、法的な著作権「意匠権」にとどまらず、倫理的な著作権に関して考察していきたい。

模倣(真似る・流行を追う・学習や練習を目的とする)とオマージュ(尊敬や賞賛の気持ちを込めて発展させる・既存の作品や表現を参考にしながらも、新たな創造性を加える)は、どちらも創作活動において重要な要素だが、意図や目的を明確にすることで、より効果的に活用する。

・プレゼンテーション演習-2、作品制作、応用課題 担当 千代崎；

1年次にて投げかけた“研究倫理”に関して、院生自身がどのように考え実践していくのかを検証する期間に位置付ける。小作品集などの著作権表記を通して自身の“考え方”を育てていく。

・作品制作、応用課題 担当 安部；

院生が資料として収集する「他者の作品の意匠権」について、院生とのディスカッションを含め研究倫理としての理解を深めていきたい。

・作品制作、応用課題 担当 鈴木；

オリジナルとコピーの問題について歴史的背景を理解した上で、それぞれの作品を事例に考察し、自らの修了制作への姿勢に繋げていく。

・作品制作、応用課題、プレゼンテーション演習-2 担当 瀬古；

引き続き「ディフェンス」としての倫理研究は継続して行きたい。これは、自分自身が指導者としての立場以前に、院生と同じく創作者であるが故の比重である。確かに表現者としては著作権等のしっかりとした主張（オフェンスとしての倫理）は必須ではあるが、この情報過多で、自らの発想が自らのものかも疑わしいほどイメージに「汚染」されている現状を鑑みると、自分の創作の足固めは重要なのではないか。そうであるが故に、創作のプロセスを重視する今研究科の様な研究の場が有意義であるのだと思いたい。

- ・作品制作 担当 白木；

私自身デザイナーとして活動しているため、主に「意匠権」を中心に研究倫理への取り組みを行っていきたいと思う。デザインをしていく上で類似には細心の注意を払うことは大前提ではあるが、万が一似た作品や商品が発見した場合は、それとの差異や、コンセプトや形状の違い等、きちんと説明できるようにしておくことも大事である。また類似とされないような工夫や修正も必要である。

- ・作品制作 担当 田口；

院生の発想が独自の視点となるようにディスカッションを重ね、院生と共に研究倫理に関して考察、取り組みをして行きたい。

■学生へのメッセージ

視野を広げるために、継続して自分の専門領域以外のジャンルに対する興味を暖めておくこと。

授業時間は飽くまでも、課題確認、作品講評の時間であり、当然それ以外の自習時間のそれぞれの使用方法が問われることとなる。この自習時間(＝創作時間)の積極的な使い方を考えておくように。

修了制作の準備に入るが、飽くまでも自らが「造形作家」であるという意志の徹底のもとで研究展開を行うこと。

科目名 修了制作（創作表現）

必修【創作表現コース】

開講年次：2年次2期

演習

単位：6単位

■科目のねらい

それぞれの創作テーマの設定のもとに作品を制作する。

作品はそれぞれの作家としての「世界観」を示すため、作品のテーマや方向性等によって一人3点から10点の制作とし、作品内容（すでに、2年次1期に決定している担当指導者と協議済み）により作品数は変わる。

また、それらのプレゼンテーションのプランニングをもとに、作品発表方法の研究も同時に進行する。

マテリアルに関しては田口が一部指導を担当する。デザインプランニングに関しては白木が一部指導を担当する。

随時講評会を行い、客観的な視点にあてがいながら、制作を進行させて行く。

修了制作発表は、展覧会場等におけるインスタレーション及びパフォーマンス形式とする。

その目的は、造形作品としての衣服を追求した姿勢を示すために、基本的に作品との距離が作品鑑賞の妨げになるショー形式の発表を避け、ギャラリーなどでのインスタレーション形式の展示による作品発表を行い、それによって、ディテールまで徹底した造形の作品鑑賞を促すことを可能とすることである。また、その発展的表現として、それらに時間軸や物語性を与えたパフォーマンス形式、或いは、映像などで物質性を排除したバーチャルなプレゼンテーション表現などが考えられる。

[担当：桐山征士、千代崎寛、安部智子、鈴木桜子、瀬古徹、白木ゆみ香、田口雅子]

■到達目標

二年間の集大成、さらに修了後の作家活動の出発として、「衣」の造形作品を制作する。真の「衣」の造形作家を目指す。

■修了認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

修了認定に必要な科目である。

本科目は修了制作発表に向けて、それぞれの造形研究テーマに基づき、エスキース及びマケット等から作品を構想し、制作コンセプト、制作プロセスの確立を行いながら創作研究を行い、作品と展示空間、小作品集などの制作・発表のプロセスと直接的・間接的に関わりながら、プレゼンテーションに必要な要素とともに意識を形成し、創作者としての自意識を外部にて修了制作におけるプレゼンテーション、インスタレーション、パフォーマンスといった表現方法で修了作品発表を行う。自らの作品・表現を公の場で示し、外部審査員の専門的な視点からの批評、評価を受け、多くの鑑賞者の鑑賞、評価を通し「衣の造形」作家としての制作姿勢とその作品水準の向上を図ることを目的とする。

■担当教員

桐山征士、千代崎寛、安部智子、鈴木桜子、瀬古徹、白木ゆみ香、田口雅子

■授業計画・内容

	授 業	発表等その他
	▼修了制作	
第1回	制作-1 1) 作品の表現の方向性の確認 2) 1)に伴う制作プロセスの確認 3) 作品展示方法の研究、確認 (修了制作指導担当者)	修了制作計画 - 修正提出
第2回	制作-2 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行 よっての研究指導 (修了制作指導担当者)	
第3回	制作-3 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行 よっての研究指導 (修了制作指導担当者)	
第4回	制作-4 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行 よっての研究指導 (修了制作指導担当者)	
第5回	制作-5 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行 よっての研究指導 (修了制作指導担当者)	
第6回	制作-6 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行 よっての研究指導 (修了制作指導担当者)	
第7回	制作-7 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行 よっての研究指導 (修了制作指導担当者)	
第8回	制作-8 1) 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行 よっての研究指導 2) 展示準備(DM、作品集も含む) (修了制作指導担当者)	修了制作途中全体講評会 プレゼンテーション

第9回	制作-9 1) 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行によつての研究指導 2) 展示準備(DM、作品集も含む) (修了制作指導担当者)	
第10回	制作-10 1) 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行によつての研究指導 2) 展示準備(DM、作品集も含む) (修了制作指導担当者)	
第11回	制作-11 1) 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行によつての研究指導 2) 展示準備(DM、作品集も含む) (修了制作指導担当者)	
第12回	制作-12 1) 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行によつての研究指導 2) 展示準備(DM、作品集も含む) 3) プレゼンテーション準備 (修了制作指導担当者)	
第13回	制作-13 1) 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行によつての研究指導 2) 展示準備(DM、作品集も含む) 3) プレゼンテーション準備 (修了制作指導担当者)	
第14回	制作-14 1) 第1回の3項目の確認を主軸にそれぞれの進行によつての研究指導 2) 展示準備(DM、作品集も含む) 3) プレゼンテーション準備、リハーサル (修了制作指導担当者)	
第15回	→最終講評 1)各自、外部ギャラリー、イベント会場等での作品展示発表 2)外部審査員(プロフェッショナルのクリエイター)による、作品、展示、プレゼンテーションの評価採点、講評 (修了制作指導担当者、外部審査委員)	修了制作 1.プレゼンテーション 2.展示又はパフォーマンス(作品 3～10点) 3.ポートフォリオ1冊提出 4.小作品集

■研究のための時間外準備

- 第1回 創作研究Ⅲ・作品制作からの継続制作。創作研究Ⅲ・応用課題の作品評価の分析、問題点の解決、発展
〔準備研究〕 1) 作品の表現の方向性の確認 2) 1)に伴う制作プロセスの確認 3) 作品展示方法の研究、
確認
〔→第2回～第7回各授業内、第8回修了途中全体講評会にてフィードバック〕 1440分
- 第2回 〔継続研究〕 それぞれの進行によつて 1) 作品表現の方向性の確認 2) 1)に伴う制作プロセスの確認
3) 作品展示方法の研究、確認 〔→第3回のディスカッションと第8回、修了途中全体講評会にてフィードバック〕 1440分
- 第3回 〔継続研究〕 それぞれの進行によつて 1) 作品表現の方向性の確認 2) 1)に伴う制作プロセスの確認
3) 作品展示方法の研究、確認 〔→第4回のディスカッションと第8回、修了途中全体講評会にてフィードバック〕 1440分
- 第4回 〔継続研究〕 それぞれの進行によつて 1) 作品表現の方向性の確認 2) 1)に伴う制作プロセスの確認
3) 作品展示方法の研究、確認 〔→第5回のディスカッションと第8回、修了途中全体講評会にてフィードバック〕 1440分
- 第5回 〔継続研究〕 それぞれの進行によつて 1) 作品表現の方向性の確認 2) 1)に伴う制作プロセスの確認
3) 作品展示方法の研究、確認 〔→第6回のディスカッションと第8回、修了途中全体講評会にてフィードバック〕 1440分
- 第6回 〔継続研究〕 それぞれの進行によつて 1) 作品表現の方向性の確認 2) 1)に伴う制作プロセスの確認
3) 作品展示方法の研究、確認 〔→第7回のディスカッションと第8回、修了途中全体講評会にてフィードバック〕 1440分
- 第7回 〔継続研究〕 それぞれの進行によつて 1) 作品表現の方向性の確認 2) 1)に伴う制作プロセスの確認
3) 作品展示方法の研究、確認 〔→第8回、修了途中全体講評会にてフィードバック〕 1440分
展示プラン、作品集構想を含めたプレゼンテーションの準備 180分 〔→第8回、修了途中全体講評会にてフィードバック〕
- 第8回 作品構想のプレゼンテーション準備 〔準備研究〕、作品構想の評価の分析、問題点の解決 〔→第9回～14回授業内ディスカッションと、第15回修了制作発表にてフィードバック〕 〔継続研究〕 2160分
- 第9回 〔継続研究〕 それぞれの進行によつて 1) 作品の表現の方向性の確認 2) 1)に伴う制作プロセスの確認
3) 作品展示方法の研究、確認 〔→第10回のディスカッションと第15回、修了制作発表にてフィードバック〕 小作品集制作、展覧会案内状制作、搬入出展示計画 〔→第10回のディスカッションと第15回、修了制作発表にてフィードバック〕 2160分

第10回	〔継続研究〕 それぞれの進行によって 1)作品の表現の方向性の確認 2)1)に伴う制作プロセスの確認 3)作品展示方法の研究、確認〔→第11回のディスカッションと第15回、修了制作発表にてフィードバック〕 小作品集制作、展覧会案内状制作、搬入出展示計画〔→第11回のディスカッションと第15回、修了制作発表にてフィードバック〕 2160分
第11回	〔継続研究〕 それぞれの進行によって 1)作品の表現の方向性の確認 2)1)に伴う制作プロセスの確認 3)作品展示方法の研究、確認〔→第12回のディスカッションと第15回、修了制作発表にてフィードバック〕 小作品集制作、展覧会案内状制作、搬入出展示計画〔→第12回のディスカッションと第15回、修了制作発表にてフィードバック〕 2160分
第12回	〔継続研究〕 それぞれの進行によって 1)作品の表現の方向性の確認 2)1)に伴う制作プロセスの確認 3)作品展示方法の研究、確認〔→第13回のディスカッションと第15回、修了制作発表にてフィードバック〕 小作品集制作、展覧会案内状制作、搬入出展示計画〔→第13回のディスカッションと第15回、修了制作発表にてフィードバック〕 2160分
第13回	〔継続研究〕 それぞれの進行によって 1)作品の表現の方向性の確認 2)1)に伴う制作プロセスの確認 3)作品展示方法の研究、確認〔→第14回のディスカッションと第15回、修了制作発表にてフィードバック〕 小作品集制作、展覧会案内状制作、搬入出展示計画〔→第14回のディスカッションと第15回、修了制作発表にてフィードバック〕 2160分
第14回	修了制作発表準備〔→第14回のディスカッションと第15回、修了制作発表にてフィードバック〕 継続研究 2160分
第15回	1)修了制作展示（展覧会場）小作品集完成、展覧会案内状完成、送付、配布、搬入出展示計画〔準備研究〕 2)外部審査員審査・評価 プレゼンテーション準備〔準備研究〕 3)作品評価の分析、問題点の解決〔→修了後の衣の造形作家活動に向けて〕 4)ポートフォリオの提出（研究過程の作品制作の集成） 継続研究 2400分〔→授業時間外、学内修了制作発表後にてフィードバック〕

■教科書・参考文献等

参考文献

『身体 of 夢 ファッション or 見えないコルセット』京都国立近代美術館他編集、京都服飾文化研究財団発行
『MAISON MARTIN MARGIELA STREET special edition volumes1&2』青木正一発行、ストリート編集室、メゾンマルタンマルジェラ

Luc Derycke and Sandra Van Veire: *BELGIAN FASHION DESIGN*, LUDION

Hussein Chalayan, Caroline Evans, Suzy Menkes: *HUSSEIN CHALAYAN*, Nai Uitgevers Pub

William A. Ewing: *Edward Steichen: In High Fashion: The Cond Nast Years 1923-1937*, Thames & Hudson

Gianluigi Toccafondo: *LA PICCOLA RUSSIA.*, Little More

Barbara Engelbach: *Bilder in Bewegung - Kuenstler & Video & Film.* Perfect, Museum Ludwig Köln

Stefan Horn, Rudolf Netzelmann, Peter Winkels: *Signs of the city - metropolis speaking-*. jovis

Bronwyn Cosgrave 編『SAMPLE —100 ファッションデザイナー - 010キュレーター』ファイドン

■成績評価基準と方法

衣服造形作家としての「制作の姿勢」と「作品」そのものを評価対象とする。

修了制作の作品評価は、担当指導者のみで行われるのではなく、他の担当指導者全員で行われる。

作品・発表

全研究指導者による評価→ 75%

外部審査員による評価（作品評価も含む）→ 25%

理由は、外部審査員による評価を加えることにより専門家の視点という客観性を持たせた上で、この修了制作を大学院の終点として認識するのではなく、作家活動の出発点として捉えてもらうためである。

教員それぞれの評価基準とその方法は外部審査員を含めて以下の様に設定している。

課題・制作への取組の姿勢（経緯）	40%	作品のエスキース、マテリアル・技法の研究、展示発表会場のリサーチ、作品の記録等創作の表に出て来ない基盤を固めることによる制作の姿勢を確認・分析することによる
授業内試験等、作品、レポート、プレゼンテーション（結果）	35%	①作品 ②展示 ③プレゼンテーション ④ポートフォリオ ⑤小作品集
外部専門家評価	25%	

■研究倫理への取り組み

担当 桐山；

自らの研究発表(彫刻家としての展示会等)を通して、模倣とオマージュの違いを明確にし、法的な著作権「意匠権」にとどまらず、倫理的な著作権に関して考察していきたい。

模倣(真似る・流行を追う・学習や練習を目的とする)とオマージュ(尊敬や賞賛の気持ちを込めて発展させる・既存の作品や表現を参考にしながらも、新たな創造性を加える)は、どちらも創作活動において重要な要素だが、意図や目的を明確にすることで、より効果的に活用する。—

担当 千代崎；

特に外部へ向けて発信する際の著作権表記などの考え方に関して「小作品集」「ポートフォリオ」にて考察する。

担当 安部；

院生が資料として収集する「他者の作品の意匠権」について、院生とのディスカッションを含め研究倫理としての理解を深めていきたい。

担当 鈴木；

オリジナルとコピーの問題について歴史的背景を理解した上で、それぞれの作品を事例に考察し、自らの創作活動の姿勢に繋げていく。

担当 瀬古；

「修了制作」は一つの完成形ではあるが、自分自身としては飽くまでも「ディフェンス」としての倫理研究、つまりコンセプトの強化を担っているエスキースの実践と、そのプロセスのポートフォリオとしての保存の推奨を行い続けたい。これが創作者の権利の保障の一端となることは修了後職業について後もそうであることを願っている。

担当 白木；

私自身デザイナーとして活動しているため、主に「意匠権」を中心に研究倫理への取り組みを行っていきたいと思う。デザインをしていく上で類似には細心の注意を払うことは大前提ではあるが、万が一似た作品や商品が発見した場合は、それとの差異や、コンセプトや形状の違い等、きちんと説明できるようにしておくことも大事である。また類似とされないような工夫や修正も必要である。

担当 田口；

独自の視点となり、考えが深まるようにディスカッションを重ね、共に研究倫理に関して考察して行きたい。

■学生へのメッセージ

2年間の研究の集大成である。

飽くまでも自らが「造形作家」であるという意志の徹底のもとで作品制作を行うこと。
